

平成 25 年度研究成果情報

課題名: DNA マーカーを用いたクルマエビ種苗放流効果の検討

[背景・ねらい]

クルマエビは本県有明海の重要魚種の一つであるが、近年、資源の減少が著しい。このため、有明沿岸四県では平成 15 年からクルマエビの共同放流を実施し、資源の回復を目指している。このような中、より効果的な種苗放流へとつなげるために、DNA 親子判定技術を用いた漁獲回収結果を基に、現在の海域環境に即した放流技術(サイズ、時期及び手法)を開発する。

[成果]

放流サイズ(10mm 及び 30mm)と放流時期、放流時間帯(昼、夜)の放流効果を比較するため、佐賀市川副町沖合等においてクルマエビ種苗を放流し(表1)、有明沿岸四県内での漁獲回収率を求めた。その結果、平成 25 年度の回収率から、

平成 24 年度同様、

- ・放流サイズについては、10mm サイズでも一定の放流効果があること
- ・放流時期については、早いほど効果が高いこと

新たに、

- ・放流時間帯による効果の違いは、5～6 月については夜間放流が有効であることが推測された(図 1)。

表 1 佐賀県海域におけるクルマエビの放流状況

放流 サイズ	放流時期		放流 時間帯	放流数 (万尾)	備考
	放流月	旬			
10mm	5月	下	夜	502	
	6月	中	昼	239	
	7月	上	昼	391	
	7月	上	夜	482	
30mm	5～6月	下～上	昼	143.8	有明四県共同放流事業
	6月	中	夜	140	

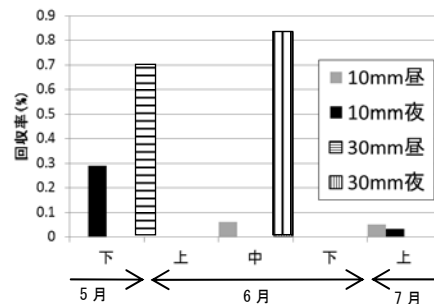


図 1 放流したクルマエビの有明沿岸四県内の回収率

[成果の課題・問題点]

- 10mm サイズ種苗についての放流事例が少ないため、放流効果を再検証する必要がある。
- 昼間と夜間の放流効果の差を再確認する必要がある。

[今後の対応]

平成 25 年度に引き続き、10mm サイズ種苗の放流を昼、夜間に放流し、放流効果を再検証する。

[その他]

研究期間: 平成 21～25 年

研究担当者: 資源研究担当 神崎 博幸